

アイデンティフィケーションの両立可能性：

多文化主義政策下の移民のナショナル/エスニック・アイデンティフィケーション

移民の大規模流入とその子孫の定住を背景とし、異なる文化を認め合い共生を促すためにヨーロッパにおいて多文化主義政策が導入されてきた。しかしながら 2010 年代前後には各国の首相が多文化主義の失敗に言及するようになり、他方で移民反対を掲げる極右政党が台頭するようになった。政治家や政治哲学者による多文化主義に対する主要な批判の一つとして、移民がもつホスト社会への帰属意識、すなわちナショナル・アイデンティフィケーション（以下 NI）に対する多文化主義政策の負の効果が挙げられる。多文化主義政策のもと文化の保持が促されることにより、移民は自身の文化により高い帰属意識（i.e., エスニック・アイデンティフィケーション、以下 EI）をもち、その結果 NI が減少すると反多文化主義者は主張する（e.g., Barry, 2000）。NI は移民の社会的統合の礎であり（Gordon, 1964）、民主主義社会を維持する上で欠くことのできない意識とされる（Miller, 1995）。イギリスのブラウン元首相などはこの低下をもって多文化主義の失敗を指摘しており（for review, Koopmans, 2013）、多文化主義導入を左右する要因といえる。

ここで反対派の論理は EI と NI の間に両立不可能性があることを前提としている。EI が仮に高まったとしても、高いレベルの NI が維持されるのであれば問題とはならない。双方のアイデンティフィケーションが両立不可能であることは Hungtinton (2004) や Fraser (2001) が明示的に論じており、多文化主義政策のもとで単に EI が高まること以上に、両者の両立不可能性が問題視されていると見ていいだろう。確かに EI と NI との間に負の関連があることは計量研究で指摘されてきており（Verkuyten & Yildiz, 2007）、この論理は一見正しいようにも見える。しかしながら、多文化主義政策のもとでは国家のイメージは排他的な単一民族から多文化を包摂するものへと変換される（e.g., Maddens, Billiet, & Beerten, 2000）。国家のイメージそのものが多文化へと変わるのであれば、移民は自身のエスニック・グループが国家に帰属していることより認識しやすくなり、EI と NI との関連は非排他的になると考えられる。

この仮説を検証するため、2014 年に行われた ESS と、既存の指数を組み合わせて新たに作成した多文化主義政策指数を用い、ヨーロッパ 20 カ国を対象にマルチレベル分析を行った。全体でみると確かに移民の EI は NI と負の関連をもっていた。次に多文化主義政策指数と EI の間にクロスレベル交互作用を作り、NI との関連を検証した。結果、多文化主義政策指数が上昇すれば、すなわち多文化主義政策の度合いがより寛容になれば、EI と NI の関連は弱まり、十分に指数が高い国（平均+0.5SD 程度）においては両者の関連は正になることが示された。この効果は国家の市民権政策や移民割合を統制してもみられた。ここから、より寛容な多文化主義政策のもとでは、移民の EI と NI は両立可能になるといえる。

参考文献

- Barry, B. (2000). *Culture and Equality: An Egalitarian Critique of Multiculturalism*. Harvard University Press.
- Fraser, N. (2001). Recognition without ethics?. *Theory, culture & society*, 18(2-3), 21-42.
- Gordon, M. M. (1964). *Assimilation in American life: The role of race, religion, and national origins*. Oxford University Press on Demand.
- Huntington, S. P. (2004). *Who are we?: The challenges to America's national identity*. Simon and Schuster.

- Koopmans, R. (2013). Multiculturalism and immigration: A contested field in cross-national comparison. *Annual Review of Sociology*, 39, 147-169.
- Maddens, B., Billiet, J., & Beerten, R. (2000). National identity and the attitude towards foreigners in multi-national states: the case of Belgium. *Journal of ethnic and migration studies*, 26(1), 45-60.
- Miller, D. (1995). *On nationality*. Clarendon Press.
- Verkuyten, M., & Yildiz, A. A. (2007). National (dis) identification and ethnic and religious identity: A study among Turkish-Dutch Muslims. *Personality and Social Psychology Bulletin*, 33(10), 1448-1462.